

南陽っ子の心を見つめる教育週間

6月24日(土)から6月30日(金)までを、令和5年度の本校の教育週間としています。

長崎県では、20年前に長崎市で起こった痛ましい事件と、その後の佐世保の事件を受けて県下公立学校一斉の取組としてこの週間を設定しています。教育活動を公開し、学校と保護者、地域の方々が連携して子どもたちの心、姿をしっかりと見つめ直し、「地域の子どもは地域で育てる」気運を高めるとともに、本県教育の特色である「いのちを輝かせて生きる、心豊かな長崎っ子の育成を図る」を、いっそう推進することが目的です。



そのために、この週間中には特に、「命を大切に作る心や思いやりの心の育成」、「あこがれや将来への志の育成」、「あいさつやマナーの向上」を目指して教育活動を展開しています。

今年度は、来校者の制限はありません。保護者様はもちろん、ご家族・ご親族様やご近所の住民の皆様にお声掛けいただき、多数のご来校をお待ちしています。

6月1日付けて配布した教育週間の案内と計画については、下のリンクでも確認できます。

<https://onl.la/djq8diD>

スクールコンサートを開催

21日(水)、本校体育館にてスクールコンサートを開催しました。

文化庁の「文化芸術活動による子ども育成推進事業 芸術家派遣事業」によって、東京よりプロの演奏家グループ『トリオN』の皆さんに来校いただきました。ヴァイオリン東海千浪さん、トロンボーン加藤直明さん、ピアノ中川賢一さん、3名とも国内外で活躍されている一流の演奏家の方々です。

文化庁HPには、「子供たちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施する事業です。子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造につなげることを目的としています。」と書かれています。

今回3名の生の演奏を聴いて、この目的は十分達成したと思っています。

「剣の舞」でスタートしたコンサート。3名の力強くリズム感あふれる演奏に、子どもたちの音楽感性は冒頭から驚づかみされたように音楽の世界に入り込んだようでした。どの曲においても、楽器が奏でる美しさややさしさ、心地よさを堪能していました。曲間での楽器の構造や音の出る仕組みの説明にも、興味津々で熱心に聞いていました。終盤のMCでは、「トリオN」の『N』は、10年ほど前に長崎に集って演奏し、以後もグループで活動を続けていこうと決まっ



たので、始まりの地である長崎の頭文字『N』をとって「トリオN」としたというエピソードも話していただきました。長崎に住む子どもたちも私たちも、何かしらうれしさと親近感を感じました。特別に質問タイムをつくってくださり、演奏に魅了された子どもたちからは次々に質問が出ていました。



演奏後にトリオNの皆さんから、「南陽小の子どもたちの生き生きとした表情と前向きな鑑賞態度は、演奏する私たちにパワーを与えてくれました。」とのうれしいお言葉をいただきました。初夏の昼下がりに、子どもたちは集中して鑑賞できるか心配していましたが、「素晴らしいモノ」は人の心を魅了し、引きつけるのだとあらためて分かりました。

